

社会政策学会 Newsletter

- ◇ 学会本部 同志社大学 社会学部 埋橋孝文研究室
URL: <http://jasps.org/> TEL: 075-251-3120 E-mail: uzuhashi01@gmail.com
- ◇ 編集・発行 埋橋孝文 (代表幹事) 郭芳・首藤若菜 (Newsletter 担当幹事) 所道彦 (事務局長)
- ◇ 事務センター 〒162-0825 東京都新宿区神楽坂 4-1-1 オザワビル (株) ワールドプランニング
Tel : 03-5206-7431 Fax : 03-5206-7757 E-mail : jasps@worldpl.jp

【目次】

1. 第 138 回 (2019 年度春季) 大会自由論題報告、テーマ別分科会報告の募集
2. 社会政策学会賞候補作の推薦 (自薦・他薦) のお願い
3. 第 136 回 (2018 年度春季) 大会の報告
4. 第 136 回 (2018 年度春季) 大会の会計報告
5. 2018 年度臨時総会報告
6. 2018-2020 年期幹事会報告
7. 承認された新入会員

1. 第 138 回(2019 年度春季)大会自由論題報告、テーマ別分科会報告の募集

社会政策学会第 138 回大会は、2019 年 5 月 18 日(土)と 5 月 19 日(日)に高知県立大学で開催されます。春季大会企画委員会では、同大会で開かれる自由論題およびテーマ別分科会での報告を募集いたします。報告をご希望の方は、下記の要領でご応募ください。また、報告にあたって事前に、フルペーパーの電子ファイルをご提出いただくことになっております。詳細に関しては、採択決定後に、分科会責任者や報告者の方々にご連絡申し上げます。

なお、自由論題およびテーマ別分科会は 5 月 18 日(土)、共通論題は 5 月 19 日(日)となります。

- (1) 自由論題で報告を希望される会員は、学会のホームページからダウンロードした応募用紙に、報告タイトル(日本語、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)、氏名(ふりがな、英語)、連絡先(住所、電話、Fax、E-mail アドレス)、400 字程度の邦文報告要旨、英文アブストラクト、専門分野別コード(1.労使関係・労働経済、2.社会保障・社会福祉、3.労働史・労働運動史、4.ジェンダー・女性、5 生活・家族、6.その他)等の必要事項を記入のうえ、添付ファイルとして下記の E-mail アドレスにご応募ください。

【自由論題報告応募・問い合わせ先】

jasps_spring@yahoo.co.jp

担当委員 畠中亨(帝京平成大学)、松田亮三(立命館大学)

また、論文・報告書・他の学会報告等のかたちで既発表の内容については報告できません。応募の段階で判明した場合は不採択といたしますのでご注意ください。自由論題に応募資格があるのは、会員で、当該年度まで会費を納入されている方です。当日は、報告 25 分、質疑 10 分となります。

- (2) テーマ別分科会の企画を希望する会員は、学会のホームページからダウンロードした応募用紙に、分科会タイトル(日本語、英語)、分科会設定の趣旨(日本語 400 字程度、非会員を報告者に招聘するときは、招聘しなければならぬ理由を記入)と英文アブストラクト、座長・コーディネーターの氏名(ふりがな、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)、連絡先(住所、電話、Fax、E-mail アドレス)、報告者の氏名(ふりがな、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)、E-mail アドレス、各報告の邦文報告要旨(400 字程度)と英文アブストラクト、予定討論者の氏名(ふりがな、英語)、所属機関とポジション(日本語、英語)等必要事項を記載のうえ、添付ファイルとして下記の E-mail アドレスにご応募ください。なお、テーマ別分科会の企画に応募資格があるのは、会員のみです。

【テーマ別分科会報告応募・問い合わせ先】

bunkakai2015jasps@yahoo.co.jp

担当委員 石塚史樹(東北大学)、朱珉(千葉商科大学)

以下は、自由論題とテーマ別分科会の応募に共通の注意事項です。

- (3) 応募は、原則として、学会ホームページからダウンロードした応募用紙に必要事項を記入し、添付ファイルとして、上記の E-mail アドレスにお送りいただくことになってい

ます。なお、この方法による提出が難しい方は、春季大会企画委員長までご相談ください。

- (4) 応募用紙の「報告要旨」及び「分科会設定の趣旨」の「400 字程度」との字数をお守りください。記入の不完全なもの、字数の著しく過剰なものや過少なものは、応募を不採択とさせていただくことがあります。
- (5) 自由論題・テーマ別分科会の「報告要旨」及び「分科会設定の趣旨」のいずれについても、英文のアブストラクトを提出していただくことになっておりますので、ご注意ください。英文アブストラクトには語数の基準は設けませんが、邦文の「報告要旨」や「分科会設定の趣旨」と同内容となるようにしてください。また、学会では英文の校閲は行いませんので、英文については、原則としてネイティブ・スピーカーによる校閲(機械翻訳ソフト利用は不可)を受けた上で、誤りや不適切な表現がないものを提出してください。英文アブストラクトは、学会の英文ホームページで公開されます。また、学会が発行する英文ニューズレターに掲載されます。
- (6) 応募にあたっては、応募時点の所属機関とポジションをご記入ください。大会プログラムには、原則として所属機関のみを表記しますが、院生の場合は所属機関とポジション(院生)を表記します。大会当日までに所属が変更となる方は、報告時のフルペーパーに新しい所属機関などを各自がお書きくださることで、変更にご対応ください。
- (7) 応募の締め切りは、【2019 年 1 月 14 日(月)17 時】です。締め切りは厳守です。その後の応募は不採択とさせていただきます。
- (8) 応募された方に対しては、遅くとも 1 月 21 日(月)までに応募用紙受領の連絡を行います。この時までには連絡のない場合はなんらかの事故の可能性がありますので、問い合わせ E-mail アドレス(あるいは下記の春季大会企画委員長宛)にお問い合わせください。
- (9) 応募の採択と不採択の結果については、春季大会企画委員会および幹事会で審査の上、2 月下旬までにご連絡する予定です。
- (10) 第 128 回大会からフルペーパーは電子化されました。その目的は、フルペーパーの準備(大量印刷・送付)を行う報告者とフルペーパー管理(大量保管・移動、締切後や当日の対応、処分等)を行う開催校、双方の負担軽減です。期日までに提出できず、フルペーパー

の電子化ができなかった場合には、会場で十分な議論ができないだけでなく、提出期限を守られた報告者との間で不公平が生じます。フルペーパーが用意されることで報告が成立するという点をご理解いただき、採択された場合は期日までにフルペーパーを提出されるようお願いします。

特にテーマ別分科会の申し込みにあたってコーディネーターの方は、必ずすべての報告者に、フルペーパーの提出の義務と締め切り日について説明し、了解を得ておいてください。

「すべての報告者」には、分科会が招聘する非会員の方、実務家の方も含まれますので、ご注意ください。なお、フルペーパーとは学会報告の内容を学会誌掲載の論文に準じて記述したものであり、既発表の論文・報告書等の転載は認められません。

★ 今大会のフルペーパーの提出締切は、【2019 年 4 月 25 日(木)17 時】となります。今大会より、フルペーパーのアップロード作業を業者に委託する関係上、従来から締切が早まっておりますので、提出日を勘案しうえ応募してください。

- (11) ご提出いただいたフルペーパーは、会員に事前にパスワードを送付し、そのパスワードを学会ホームページの大会フルペーパーのサイトに入力する方法で(つまり、インターネット上での一般公開という形を避けて)、大会前後の限られた期間にのみ、閲覧と印刷が可能になるようにします。自由論題およびテーマ別分科会で報告が採択された方は、【2019 年 4 月 18 日(木)～4 月 25 日(木)17 時必着】で、フルペーパーの電子ファイルを、担当委員(上述の担当委員とは別の委員となります)までお送りください。ファイル形式は、原則として PDF ファイルとします。ファイルの送付方法や送付先などの詳細については、採択決定後にご連絡いたします。
- (12) 自由論題およびテーマ別分科会で報告された会員は、大会での報告後、フルペーパーに改善を加えて、社会政策学会誌『社会政策』に投稿されることを、幹事会と学会誌編集委員会ではつよく奨励し期待しています。大会用フルペーパーは、その後の投稿を考慮してご執筆ください。なお、『社会政策』へ投稿する資格があるのは、会員のみです。
- (13) 応募された後で、応募を取り下げること(報告のキャンセル)は、原則としてできませんので、ご注意下さい。
- (14) 当日のプログラムは企画委員会が決定します。報告時間帯等については、複数の分科会にかかわっているなど登壇が重複するケース以外は、応募者からのご希望

には応じられませんので、ご注意ください。

(15) 報告希望の前に、学会費の支払いはお済ませください。学会費に滞納がある場合は報告が許可されませんので、ご注意ください。

(16) 共同研究の成果を報告する場合は、共同研究者の了解を取ってください。複数で報告する場合は、応募者のあとに共同研究者(会員・非会員は問いません)の名前をあげ、応募者及び応募者とともに当日登壇する

人に下線を引いて下さい。なお、当日登壇できるのは会員に限られますので、ご注意ください。

春季大会企画委員会委員長 鬼丸朋子
〒192-0393 東京都八王子市東中野 742-1
中央大学 経済学部
電話:042-674-3402(研究室直通)
Email:onimaru@tamacc.chuo-u.ac.jp

2. 社会政策学会賞候補作の推薦(自薦・他薦)のお願い

新たな学会賞選考委員会が9月15日に発足しました。

選考委員会では、2019年1月より第25回学会賞の選考を開始します。

つきましては、学会会員の皆さまに候補作の推薦をお願いいたします。自薦・他薦は問いません。外国語著書も選考対象に含みます。

候補作の条件は、表彰規定第3条および第4条に基づき、本学会に3年以上継続して在籍している会員によって、2018年1月1日から同年12月末日までの間に公刊された著書です。

幹事会と学会賞選考委員会では、書籍データベース等を活用して、会員の皆さまの日本語の著書リストを作成し、選考の際に利用しています。しかし、100%確実に会員の著書すべてを拾い上げるのは、難しいのが現状です。また、外国語の著書については、原則として、推薦していただいたもののみを選考の対象としています。

つきましては、とくに、会員の皆さまが著書を2018年中に刊行された場合は、ぜひとも、候補作の「自薦」の形で、お知らせいただくようお願いいたします。

これらの著作リストと推薦作品は、秋季大会の書評分科会で取り上げる図書の選定にも活用させていただきます。

推薦は、以下の要領で、封書かE-mailにてお願いいたします。

また、候補作の現物寄贈にもご協力いただければ幸いです。

1. 締切と宛先 2019年1月20日必着
社会政策学会賞選考委員長 木村保茂 宛
郵送先:〒064-0953
札幌市中央区宮の森3条2丁目1-20
E-mail:ko-kimu0607@y2.dion.ne.jp
2. E-mail の場合は、件名を「社会政策学会賞推薦」としてください。
E-mail の場合は、数日以内に受領確認の返信をお送りいたします。
3. 以下の事項を明記して下さい。①と②は必須、③は任意です。
①推薦者のお名前、ご所属、連絡先
(自薦の場合は、電話番号、E-mail アドレスを必ず明記してください)
②候補作の著者名、書名、出版社、出版年
③推薦理由

なお、他薦の場合、「本学会に3年以上継続して在籍している会員」であるかどうかを確認していただく必要はありません。こちらで確認いたします。

以上、候補作の推薦方ご協力のほどよろしくお願ひいたします。

学会賞選考委員会
委員長 木村保茂

3. 第136回(2018年度春季)大会の報告

社会政策学会第136回(2018年度春季)大会は、5月26日(土)と27日(日)の両日、埼玉大学にて開催されました。多少不便なところに位置するものの、天候にも恵まれ、291人の参加者を得ることができました。無事に大会が終わったことにつきまして、参加された方々、関係の方々に感謝申し上げます。

埼玉大学で大会が開催されたのは、1994年の第88回大会

に続き、今度が2回目です。実は、以前、久本憲夫先生が代表幹事だった時に、大会開催について促されたことがありました。その時は、大会準備にあたる会員がたまたま学内に私一人しかいないことを口実に「うまく」逃げました。ただし、心のなかでは「負債」として残っておりました。そのうち、前代表幹事の遠藤公嗣先生より、春の大会を開催してくれるよう、依頼

されました。今度は、首を横に振るわけにはいかず、お受けした次第です。

依頼を受けてすぐ、大学に問い合わせをしました。運よく週末の講義室事情に余裕があり、幹事会との調整のうえ、5月26・27日という比較的都合のよい時期を選ぶことができました。以後、会場の選択と確保は、大学の協力のもと、順調に進みました。「全学講義棟」という建物のなかに、374人の大型講義室があるので、共通論題をそれに充てるようにし、テーマ別分科会・自由論題・博士論文報告会の会場もすべてこの建物に集約することにしました。なお、分科会等の部屋は、広すぎて席が空いてしまい緊張感が落ちることを避けるため、おおむね中規模の講義室を選択しました。大会当日、ほぼ満席となり、トイレへの移動などに不便をおかけしましたが、結果的には会場の熱気を高めるのに役立ったのではと思います。

一つの問題は、この建物のなかには小型の講義室があまりないことでした。それで、昼間の幹事会・各種委員会・専門部会などは、少し離れた経済学部棟でこれらすべてを開くことにしました。関係者には移動等のことで多少不便だったかもしれませんが。もう一つの問題は、書籍展示コーナーでした。前回大会実行委員長の玉井金五先生から、大会本部・休憩室・書籍展示コーナーを一体化するのがよい、というご教示をいただいております。しかし、机・椅子が可動式となっている適切な教室が見つけれず、なお、前日での書籍の受け入れ場所が限定されたこともあって、今度は実現できませんでした。

実行委員会は、金井郁さんと、着任したばかりの天津唯さんと私の三人で構成しました。会員ではないが、テニユアトラック教員として在任中のNoh, Sung-Chulさんにも助けられました。金井さんが懇親会やバスの用意などを担当し、天津さんが会場の用意などを担当し、私がバイトの用意などのほか総括の役を担うことに役割分担をしました。大会会場が駅から離れており、近いところに適切な懇親会場もなかったため、バスや懇親会場の用意には苦勞しましたが、金井さんの活躍で見事に解決されました。ただし、懇親会場へ移動する際にバスの出発が遅れ、結果的に親交を深める時間が短くなってしまったことにつきましては、皆さまに申し訳なく思います。

一方、実行委員会には参加しなかったのですが、大会当日には本学の社会人博士および博士候補の学会員に多数来てもらい、大いに手伝ってもらいました。なお、駅・バス停・構内での案内や受付、会場案内などは私の学部ゼミ生たちにやってもらいました。全般的により働きぶりを見せてもらったと思います。実際、少なくない参加者から、「しっかりやってくれてい

ます」という誉め言葉をいただきました。

一日目のテーマ別分科会と自由論題は、活気めいた雰囲気の中かで順調に進みました。テーマ別分科会が3つ、国際交流分科会が2つ、そして自由論題が5つのセッションに分かれ、セッションごとに濃淡はあったかもしれませんが、活発な議論が行われました。昼間の時間帯に開かれた「(教育セッション)博論を出版するまで」および今回初めて設けられた「博士論文報告会」も盛況だったと思います。二日目の共通論題「所得政策の現在」も多数の参加者を得て、最後の総括討論が終わるまで、終始熱い議論が交わされました。報告と討論を単にサポートした側としては、これらの議論がより大きな成果として実ることを期待してやみません。

懇親会は、多少離れたところの大宮ソニックシティ14階の「天空のジパング」にて開催されました。懇親会には137人が参加され、大変な盛況となりました。冒頭、前・現代表幹事の遠藤公嗣先生と埋橋孝文先生がご挨拶されました。引き続き、本学会を代表するメンバーの一人の兵藤釗先生よりお祝いのお言葉を頂戴しました。そして、しばらくの懇談を挟んで上井喜彦先生より励ましのお言葉をいただきました。前例にならって、会場には「埼玉の名酒コーナー」が設けられ、雰囲気を高めました。京谷栄二会員のギターとフルートの素晴らしい演奏が加わり、懇親会は大いに盛り上がりました。なお、この間あまり行われなかった学会賞受賞者のスピーチも聞かせていただき、記憶に残る懇親会になったのではと思います。

振り返りますと、大過なしに大会が終わるまでには、多くの方々のご協力がありました。代表幹事経験者あるいは実行委員長経験者の埋橋、遠藤、玉井、久本(順不同)の諸先生からは、大会準備に関する丁寧なご教示をいただきました。当時の春季大会企画委員会の榎一江会員と鬼丸朋子会員、および当時の秋季大会企画委員会の熊沢透会員からも、負担のかかる各種の調整などを快く担っていただきました。今回も引き続き行った聴覚障害対応においては、春季大会企画委員会および支援団体の皆さまにご協力をいただきました。それから、大会の準備から次回大会への引継ぎにいたるまで、実務のほぼすべての段階において、AC Planningの細矢さまにご尽力いただきました。この場を借りて厚くお礼を申し上げます。

実行委員長 禹宗杭

4. 第 136 回(2018 年度春季)大会の会計報告

【大会会計】(単位:円)

収入		支出	
学会より大会開催費として	1,500,000	AC Planning への支払い (各種印刷代などを含む)	912,347
書店の広告・出展料	130,000	学会手伝いのアルバイト代	360,880
事前振込み: 弁当代(87 個)	87,000	弁当代 (アルバイト分を含む)	121,200
事前振込み: 懇親会費(94 名)	470,000	懇親会代金(酒代を含む)	647,375
当日支払い: 懇親会費(39 名)	234,000	バス代 (路線バス増車分および貸し切りバス分)	198,980
事後振込み: 懇親会費(国際委 2 名)	10,000	コーヒー・菓子代	13,485
		託児施設利用料	43,500
		実行委員会事務費(郵送料・振込手数料 などを含む)	28,185
		実行委員会留保(研究費として活用)	105,048
収入合計	2,431,000	支出合計	2,431,000

【参加者数の内訳】

	大会参加			懇親会参加		
	事前申込人数	当日申込人数	参加者計	事前申込人数	当日申込人数	参加者計
一般会員	145	86	231	94	39	133
一般非会員	2	0	2			
学生会員	20	31	51			
学生非会員	2	0	2			
名誉会員	3	0	3			
招聘者	2	0	2	2	0	2
来賓	0	0	0	2	0	2
計	174	117	291	98	39	137

5. 2018 年度臨時総会報告

2018 年 9 月 15 日(土)17 時 から 17 時 20 分まで北海学園大学 7 号館 D20 教室において、社会政策学会会則第 20 条に基づき、2018 年度臨時総会が開催された。議長に石井まこと会員が選出されたのち、次の通り議事が進行した。

1. 埋橋代表幹事より旅費規程の改訂案が提案され、審議の結果、承認された。

その内容は社会政策学会旅費規程の第 1 条に以下を追加するものである。

- (11) 重点事業担当幹事および関係者で重点事業準備会に出席した者
- (12) 代表幹事および事務局長で新旧代表幹事・事務局長の引継ぎ会に出席した者
- (13) 幹事で地方部会の要請により地方部会の大会に出席した者

2. 埋橋代表幹事より 2020 年度に予定している 70 周年記念行事の正式名称を「社会政策学会戦後再建 70 周年記念行事」とする旨およびその理由についての報告があった。理由は次の通り。

①「1897 年、今は遠き明治期の旧学会が、その前年発足

の『社会問題の研究会』に『社会政策学会』の名を冠し誕生してより、100 年の時を経過した。これを記念する社会政策学会第 95 回大会は、1997 年 11 月 1・2 の両日、同志社大学今出川キャンパスにおいて開催された」(西村豁通「あとがき」『社会政策学会 100 年』、啓文社、1998 年)。ほかにも、「現・社会政策学会」、「再建された」という表現も散見される。

②今 137 回大会は 1950 年に開催された第 1 回大会より通算した回数である。

③「戦後再建」という表現の中には、戦前からの長き歴史を有しているということが含意されている。

3. 石井議長が 2019 年春の第 138 回大会開催校、高知県立大学田中きよむ大会実行委員長のあいさつ文を代読して、臨時総会を終了した。

<70 周年記念事業(重点事業)の名称について>

(7 月 8 日幹事会で承認)

記念事業の正式名称を「社会政策学会戦後再建 70 周年記念事業」とする。

6. 2018-2020 年期幹事会報告

【第3回幹事会 議事録】

日時:2018 年 9 月 14 日(金) 14 時~17 時 45 分

場所:北海学園大学 7 号館 D601 室

出席:石井、伊藤、埋橋、遠藤、鬼丸、熊沢、所、戸室、上村、吉村

欠席:阿部、岩永、禹、榎、大沢、垣田、郭、首藤、杉田、田中、中尾、兵頭、朴、畑本、金、玉井、森、李

1. 臨時総会の議案、議事確認

臨時総会における旅費規程の見直しについて確認した。

2. 137 回大会の進行、運営について

書評分科会で 2 名の著者が欠席であるとの報告があった。報告者の準備状況を確認の上、プログラム通りに実施し、報告の記録を残すこととした。

3. 学会賞選考委員の委嘱

社会政策学会賞表彰規程第 6 条により、学会賞選考委員の選出を行った。木村 保茂(北海学園大学)、中島 醸(愛知県立大学)、李 蓮花(東京経済大学)、吉田 健三(青山学院大学)に加えて、新委員として、柴田 悠(京都大学)、川口 章(同志社大学)、富江 直子(茨城大学)の 3 人が承

認された。

4. 秋季大会企画委員会報告

吉村委員長より、第 137 回大会におけるフルペーパーの事前提出状況について、23 報告中 16 報告、69.6%であること、未提出者への救済策をとくに講じなかったことが報告された。現時点の秋季大会企画委員会では、未提出者に対して、次回大会での報告を認めないとするのが現実的という共通認識であることが報告された。

共通論題のスケジュールの見直しについて、秋季大会企画委員会での検討状況が報告された。第 139 回大会(2019 年秋季)における 共通論題の短縮の具体的な方法として、2 日目の午後の時間帯に 4 時間かけて共通論題を設定し、報告の構成は、報告者 3 名+コメンテーター 1 名、もしくは、報告者 4 名が、各 30 分ほど報告する案が検討されていることが報告された。

札幌市身体障害者福祉協会から 4 名のパソコン要約筆記者の派遣を受けることについて、震災もあり寄付として 5 万円支払う旨了承された。

5. 春季大会の企画委員会報告

鬼丸委員長より、2019 年春季大会共通論題の準備状況と

今後のスケジュールについて報告があった。共通論題の座長および報告者の選定を進めていることが報告され、了承された。また、2019年度春季大会(5月18日、19日高知県立大学)の報告申込み締め切りを2019年1月14日(月)とすることが確認された。

フルペーパー未提出者への対応について、引き続き春季・秋季大会企画委員会で検討した後、たたき台を幹事会に提出することが確認された。具体的には、未提出回数に応じて、未提出者に対する代表幹事あるいは企画委員長からの事情聴取、一定期間の報告の制限など報告権の制限を強めていく形を念頭に作業をすすめていく。なお、春季企画委員会からは、提出を促すためのインセンティブ機能の強化を検討したことも報告されたが、こちらについては当面これ以上煮詰めないこととなった。

学会当日の託児方式について、他学会の状況について報告があった。他学会の例に照らして、本学会でも2019年春季大会から、これまでの開催校による託児所の設置のかわりに、本人からの託児所の利用に対する申請に基づいて補助金を支払う方式を導入することとした。

6. 学会誌編集委員会報告

石井委員長より、刊行進捗状況、論文投稿および審査の状況、編集委員会にて協議中の事項について報告があった。小特集の扱い方、査読指針およびフローチャートの整備の必要性、ワーキングペーパーの取り扱い、今後の特集についての案、編集委員会の引き継ぎのあり方について報告があり、了承された。

7. 広報委員会報告

伊藤委員長より、学会一斉送信メールについて報告があった。現在、ホームページの他、地方部会のプログラムについての告知等を会員一斉メールで行っている。現状では、会員一斉送信メールが増加傾向にあり、費用の増大とともに、緊急の場合の告知機能が低下することが懸念されている。また、地方部会、専門部会からメールのリストを要望する声もあり、会員情報を管理しているワールドプランニングとの交渉および新たな情報発信の方策の検討を、代表幹事、事務局長、広報委員長を中心に進めていくこととした。

8. 国際交流委員会報告

上村委員長より、国際学会報告助成制度(案)について報告があった。現在、国際交流関係の規程が複数存在していることから、整理を進めていくことを確認した。

9. 学会史小委員会報告

玉井幹事より提出の70周年記念誌の概要案と中尾友紀会

員(愛知県立大学)の学会史小委員会委員への補充が承認された。

10. 事務局

所事務局長より、経費の支払いについて、一定期間ごと作業業を行って一括処理する予定であるとの報告があり、了承された。

11. 入会

4名の入会を承認した。

12. 次々回以降の幹事会

第5回幹事会は2019年2月9日(土)あるいは2月10日(日)のいずれかの日に、同志社大学にて14時から開催することになった。

【第4回幹事会 議事録】

日時:2018年9月16日(日) 12時10分~13時20分

場所:北海学園大学7号館 D601室

出席:石井、伊藤、埋橋、遠藤、鬼丸、熊沢、所、戸室、上村、畑本

欠席:阿部、岩永、禹、榎、大沢、垣田、郭、首藤、杉田、田中、中尾、兵頭、朴、金、玉井、森、李、吉村

1. 学会賞選考委員長の決定

埋橋代表幹事から昨日開催された第1回学会賞選考委員会で木村保茂会員(北海学園大学)が委員長に互選されたとの報告があった。

2. 会員情報の利用について

伊藤広報委員長から、専門部会については、一斉メールで会員に専門部会の担当者を周知し、各部会が独自に設定した「受付メールアドレス」に、所属する会員がメールで返信することで連絡先リストを構築する方式が提案され、了承された。

また、地方部会については、役員選挙の際のブロック別のリストが存在することから、それを活用することとし、ワールドプランニングに情報提供を求めることとし、技術的な面の協議について伊藤委員長が打診することとなった。

3. 国際交流規程について

上村国際交流委員長より、前日提案の国際学会報告助成制度(案)と、「国際交流旅費規程」および「国際交流旅費の申請手続きに関する申し合わせ」との関係について説明があり、引き続き国際学会報告助成制度(案)とともにこの問題も検討していくことになった。

7. 承認された新入会員

氏名	所属	専門分野
古波蔵 契	明治学院大学社会学部	労働史・労働運動史
孫 応霞	大阪府立大学人間社会システム科学研究科	社会保障・社会福祉
李 根忠	南京三江学院商学院	労使関係・労働経済
林 美子	お茶の水女子大学大学院人間文化創成科学研究科	ジェンダー・女性